

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(生)甲 第76号	氏名	胡彦
学位審査委員	主査	宮原末治	
	副査	黒田英夫	
	副査	松永昭一	
	副査	喜安千弥	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>胡彦氏は、平成6年6月に中国の武漢交通科技大学計算機及び応用専攻を卒業し、同年7月に中国船舶検査局に採用された。平成11年10月に研究生として、長崎大学大学院生産科学研究科に入学した。その後、平成13年4月に長崎大学大学院生産科学研究科博士前期課程に入学し、平成15年3月に修了した。同年4月に長崎大学大学院生産科学研究科博士後期課程に入学し、現在に至っている。</p> <p>同氏は、長崎大学入学以降、「品質のよくない日本語文書からの文字の自動認識法についての研究」に従事し、現在までに2編の論文を発表している（その中の1編は平成18年4月に掲載が決まっている）。その成果を平成17年12月に主論文「低品質印刷漢字の認識に関する研究」として完成させ、参考論文2編を添えて、長崎大学大学院生産科学研究科教授会に博士（工学）の学位を申請した。</p> <p>長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、平成17年12月21日の定例教授会において論文内容の要旨を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の通り審査委員会を選定した。学位審査委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を行なわせるとともに、口頭による最終試験を行ない、論文の審査及び最終試験の結果を平成18年2月15日研究科教授会に報告した。</p> <p>提出論文は、デジタルカメラで撮影した低品質印刷漢字を高精度に認識することを目的として、文字画像の修復を多段に行なうことにより画質を改善する文字画像修復法（手法1）、k近傍探索を用いて学習パターンを動的に選択するし、低品質文字を高精度で認識する識別法（手法2）を提案した。提案手法をデジタルカメラで撮影した低品質印刷漢字に適用して評価を行なった結果、両手法とも低品質文字を高精度に認識することが確認できた。また、手法2については改善効果が大きく、汎用的な手法なので、特許を出願した（特願2006-11291）。</p> <p>以上のように、本論文は、情報処理の発展に貢献すること大であり、博士（工学）の学位に値するものと判断した。</p>			